

経済産業省九州経済産業局

**九州地域における
次世代自動車関連部素材の
市場動向及び参入可能性調査：報告書
平成26年度有効競争レビュー**

経済産業省九州経済産業局 2015.2. 5, 171p.

明治期の産業近代化以降、九州地域、とくに福岡県を中心とする北部地域は八幡製鉄所に代表される鉄鋼を中心に化学、窯業といった基礎素材型の産業がけん引役となって発展した。70年代以降は半導体製造工業の集積地として「シリコンアイランド九州」と呼ばれるようにピーク時には半導体生産の世界シェアが10%に達している。そして、現在の九州地域の自動車関連産業は年間生産能力150万台を擁する国内有数の自動車生産拠点に成長し、21世紀に入ってから、半導体産業に代わってこの地域の基幹産業としての役割を果たすようになっていく。

このように、九州地域の産業構造は、産業を取り巻く環境の変化に対して柔軟に適応してきたといえよう。そして、この地域の自動車関連産業も、国内市場が成熟化し、グローバルな競争が激化、他方でEVに続いてFCVの市場投入が現実のものとなる中で、自動車関連産業の新たな成長可能性を広げるために、次世代自動車に関連する部素材市場への今後の参入の努力が求められている。

以上のような九州地域の課題に対して、本報告書は自動車関連産業が引き続き地域産業のけん引役としての役割を果たし続けていくための条件を捉えようとするものである。

本報告書の構成は次のとおりである。

報告書は3つの章から成り、「第1章 九州地

域における自動車関連部素材の市場動向及び参入可能性」は、九州地域の自動車関連部素材のサプライチェーンの現状と現状を規定する要因を探り、この地域のサプライヤーの一層の参入可能性を明らかにしようとするものである。

「第2章 FCV部素材に関する市場動向及び参入可能性」は、次世代自動車としてFCVを取りあげ、FCVとその普及のためのインフラとなる水素ステーションについて、必要となる技術、部素材を明らかにし、地域の企業が参入するための条件と可能性について探っている。

「第3章 九州自動車産業における取引環境」は、九州地域で引き続き自動車関連産業が発展し続けていくための条件が適性な取引環境の確保にあるとして、経済産業省が平成26年に改定した「自動車産業適正取引ガイドライン」の認知と遵守の状況についての確認を行っている。

各章の内容を簡単に紹介すると、第1章では、統計データ、先行研究等の文献調査から九州域内調達と域外調達の現状把握と、Tier1及びTier2サプライヤーを対象にしたアンケート調査とヒアリング調査をもとに、九州域内・域外からの部素材の調達・供給の現状を明らかにしている。調査結果からは、Tier1メーカーが九州域外で生産し域内に供給する理由の多くは、Tier1自身の内部事情によるところが大きいものに対して、Tier1メーカーが九州域外のサプライヤーから調達する理由には、九州地域で解決が可能な要素が多く含まれていることを示している。

第2章では、次世代自動車として、走行時にCO₂やNO_xなどの有害物質を排出しない「究極のエコカー」と言われる燃料電池車（FCV）とその市場確立に欠かせないインフラとなる水素ステーションに焦点を当てる。文献調査をも

とにFCVの量産化と水素ステーション整備に必要な主要技術とその開発動向を整理したのちに、九州地域の自動車部素材関連企業と「福岡水素エネルギー戦略会議」会員企業へのアンケート調査をもとに、FCV・水素ステーションに関連する部素材市場への関心度の把握を試みたものである。調査結果からは、FCV・水素ステーション分野に関心を持つ企業は4割程度あるが、実際に事業として取り組む企業はごく一部にとどまっている。その要因として、それぞれの構成部品に関する標準化・規格化や技術・市場に関する情報収集が進んでいない点が指摘されている。

この地域での自動車関連産業の健全な発展のためには、適正な取引環境の確保が必要になることから、第3章では、適正な取引環境確保の条件として経済産業省が定めた「自動車産業適正取引ガイドライン」を取りあげ、その概要と実際の取引慣行などに付随する問題点、ガイドラインに対する認知度と順守状況について、アンケート調査をもとに分析を試みている。調査結果からは、自動車関連部素材サプライヤーのガイドラインに対する認知度は必ずしも高くはなく、ことにTier2以降のサプライヤーの認知度が低い。この地域の健全な取引環境を確保するためには、業界団体や行政による啓発・指導の徹底によりガイドラインが目指す部素材の調達原則遵守に対する認識の浸透の必要性が指摘されている。

以上、本報告書の概要を紹介したが、紹介した各章は並行しておこなわれたそれぞれ独立したアンケート調査をもとに、第1章は自動車関連部素材の九州地域における生産と調達の現状からみた地域内企業の参入可能性について、第2章は次世代自動車として普及が期待される

FCV関連分野への参入可能性について、第3章は健全な部素材のサプライチェーン確立の基盤となるべき適正な取引環境確保のための条件について分析がおこなわれている。以上の各章は相互に独立しており、実質的には3本の独立した調査報告を一冊に収めた印象を受ける。また、各章の分析では、突っ込んだ演繹的推論はおこなわずに、分析視点の明示と必要最小限の分析に留められている。一見、物足りなさを感じなくもないが、それだけに九州地域の自動車産業の実態と今後の可能性に関心を持つ者にとっては、多様な視点から二次的分析を可能にする優れた一次資料である。

(神戸学院大学経営学部教授 江頭寛昭)